

「正しく人を愛する六原則」(3)

出エジプト記 20章1～17節

～モーセの生涯(9)～

はじめに

今回は、モーセの生涯の9回目です。神は、神の民に十の戒めをお与えになりました。それは二つの部分に分けられていました。一部は「正しく神を礼拝する四原則」で、二部は「正しく人を愛する六原則」です。一部は神への礼拝、二部は人の道徳です。真の道徳は、真の神礼拝から生まれるというのが、聖書の教えです。

今回は、二部の中から、「あなたの父と母を敬え」と、「殺してはならない」の二つを学びましょう。

1 あなたの父と母を敬え。

正しく人を愛する第の原則は、「あなたの父と母を敬え」です。

(1) 人を愛する戒めの第一。

人を愛する事を求める第一の戒めは「あなたの父と母を敬え」です。人のいのちは、何から始まりますか。それは「父と母」からです。父と母はいのちの源であり、いのちを養い育てる者です。ですから、神様は、人を愛する事の第一に「あなたの父と母を敬え」とお命じになるのです。

適用：「父や母を敬えない」という事情があるかも知れません。しかし神様は、敬わなくてもいい」とは言われません。どのような事情があろうとも、私たちは、この神様の命令にどう答えていけば良いかを考え、行動することを求められています。

(2) 父と母だけでなく、すべての人間関係へ。

日本長老教会の信仰基準の一つであるウエストミンスター小教理問答は、この戒めをこう解釈しています。「第五戒が求めていることは、上の人、下の人、あるいは対等の人として、それぞれの地位と関係にある人々の名誉を保ち、義務を果たすことを求めています」。

ですから、この「父と母を敬え」というみことばは、父と母との関係だけでなく、兄弟の関係、学校や会社での関係、世の中でのすべての人間関係に当てはめて考えるべきものです。

(3) 祝福の約束

この戒めを守る者には、長寿と繁栄という祝福が約束されています。

2. 殺してはならない。

正しく人を愛する第二の原則は、「殺してはならない」です。この「殺してはならない」という戒めを、「すべての生き物を殺してはならない」と解釈する人もいます。仏教には「不殺生戒」と言うのがあります。

私が若い頃ですが、伝道しているとき、「キリスト教は動物を殺してその肉を食べるからいけない。私は野菜や果物しか食べない。生き物を殺すのは良くない。私は蚊を殺したこともない」と言う人がいました。すごいなと思いながら、本当かなとも思いました。

私など、蚊がいれば殺しますし、ゴキブリを見れば殺虫剤を振りかけます。肉も魚も食べますので、いつも「不殺生戒」を犯していることになります。肉や魚はいいが、野菜や果物ならいい、と言っても野菜や果物にもいのちがあります。ですから、生きているものを殺してはいけないとなると、私たちは何も食べられなくなります。

聖書は、そうは教えていません。神様は人間の食物として動物や魚や野菜や果物をお与えになりました。聖書は「神が造られたものはすべて良いもので、感謝して受けるとき、捨てるべきものは何もありません」と教えています（I 元 4:4）。

「殺してはならない」という戒めは、「人を殺してはならない」という事です。その理由を三つの点から考えてみましょう。

(1) 人は「神のかたち」に造られた。

その理由を「いのちの大切さ」にする人がいます。しかし、「いのちの大切さ」だとすると、動物にも植物にもいのちはあります。ですから「人を殺してはならない」本当の理由は、「人は神のかたちに造られた」からなのです。

「いのちより大切なものがある」と言いますが、それは何でしょう。それは、人は神のかたちに造られており、神を知り、神に仕えることが出来る者ということです。ですから、そのような者として造られた人間を殺してはいけないのです。他人だけでなく、自分もです。

(2) 神からのいのちの保存と健康の促進。

「殺してはならない」ということは、神様から与えられたいのちを大切にし、健

康に心がけることにもなります。ひと昔前までは、大人になればタバコを吸うのが当たり前で、クリスチャンがタバコを吸わないと馬鹿にされたものです。その頃は成人男性の50%以上がタバコを吸っていました。ところが、健康志向が進んで、医者もタバコの害を厳しく言うようになった今日、成人男性の喫煙率は10%台にまで下がっています。今は、タバコを吸う人の方が馬鹿だと思われる時代に変りました。

聖書はこう教えています。「あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。あなたがたは代価を払って買い取られたのです。ですから、自分のからだをもって髪の栄光を現しなさい」

(I コリント 6:19-20)。

(3) たましいを殺してはならない。

イエス様はこう言われました。「からだを殺しても、たましいを殺せない者たちを恐れてはいけません。むしろ、たましいもからだもゲヘナで滅ぼすことができる方を恐れなさい」(マタイ 10:28)。

「殺してはならない」という戒めは、私たちが自分のたましいを粗末にしてはならないということも教えています。

あなたは、自分のたましいの健康のことにどれほど気を使っていますか。健康といえは、からだのことだけではありませんか。たましいの健康は、どのようにして保たれるでしょうか。神様のみことば以外に、たましいの健康を保つものはありません。

あなたは、自分のたましいが死んだらどうなるかに関心がありますか。その準備をしっかりとしていますか。

(4) 霊的殺人

イエス様は、人を殺すことをもっと深く理解し、教えられました。「昔の人々に対して、『殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る者は、」だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』と言う者は最高法院でさばかれます。『愚か者』と言う者は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます」(マタイ 5:21-22)。

結論

神様は、神の民が正しく人を愛する原則をお示しになりました。その最初は、「あ

あなたの父と母を敬いなさい」であり、次は「殺してはならない」でした。あなたはこの二つの戒めを聞いてどのように反省しましたか。悔い改めるべき点を示されましたか。

神の民はこの戒めを守れず、墮落していきました。そのため、神様は救い主イエス・キリストをお遣わしになり、罪から救い、聖霊を遣わされて罪を犯さないように変えてくださるのです。

だからといって、私たちはこの戒めを守らなくていいということはありません。人を愛するというなら、まずこの戒めに従って生きていくほかはないのです。

救い主として受け入れていない人への勧め。

あなたは、今日までイエス様を知らなかったかもしれませんが、しかし、イエス様はあたを知っておられます。今日、今、イエス様のもとに帰っていらっしやい。イエス様は、それを望んでおられます。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

(黙示録 3:20)

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒の働き 16:31)

「神は、実に、そのひとり子をお与えなされたほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」(ヨハネ 3:16)

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私は、あなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。

アーメン